

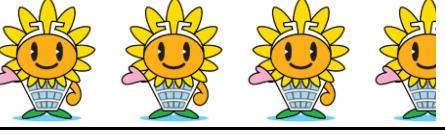
■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社アステム新北九	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.6 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0.2)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.6
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3
Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 4
Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	・耐用年数の長い外壁・内装材を採用し、建物の維持管理に配慮している。 ・空間の形状・自由さが大きい計画としている。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 4.0
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.9
・燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。	LR2/ 1.1 節水 スコア 4 ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等、水資源の保護に配慮している。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1
LR3/ 2.2 湿熱環境悪化の改善	スコア 3
—	—
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3
—	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.71
—	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: — 0.61
—	外構緑化指數 0 %
—	建物緑化指數 0 %



: 入力欄

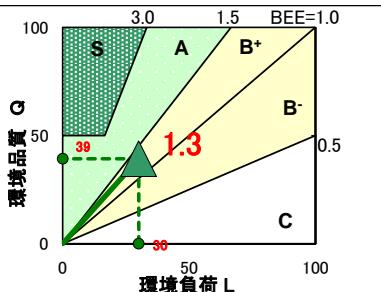
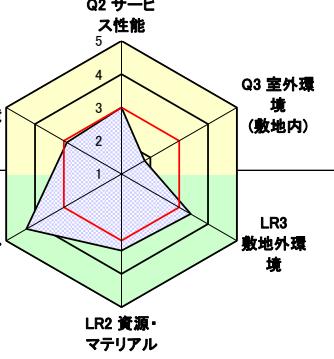


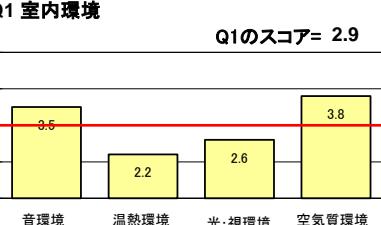
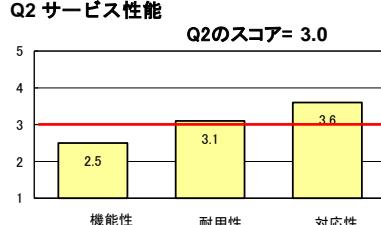
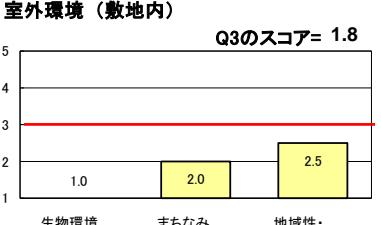
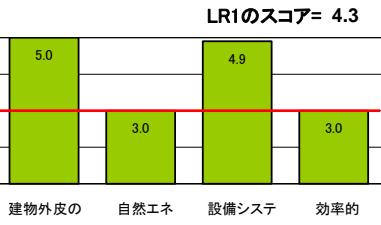
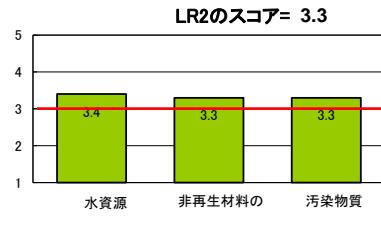
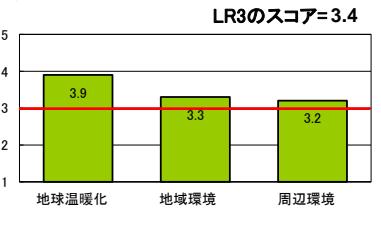
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社アステム新北九州営業部新築工事(仮称)株式会社オレリストサービス自動車整備工場新築工事(本棟)	階数	地上2F、地下0F
建設地	福岡県北九州市長野津田地区画整理事業施行地区内9街区	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	600 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年11月25日
敷地面積	11,251 m ²	作成者	杉山 聰
建築面積	4,407 m ²	確認日	2024年11月25日
延床面積	9,365 m ²	確認者	杉山 聰

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3 </p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★ B: ★★★ B+: ★★ C: ★</p>  <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 75%</p> <p>③上記+②以外の: 75%</p> <p>④上記+: 75%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので</p>	 <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★</p>	 <p>Q のスコア = 2.5</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 1.8</p> <p>LR のスコア = 3.7</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.4</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.9</p> 
<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.0</p> 
<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 1.8</p> 
LR 環境負荷低減性
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.3</p> 
<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.3</p> 
<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.4</p> 

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出量の低減に努めている。	-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・全面的にF★★★★の建築材料を採用し、空気質環境の向上に配慮している。	・リフレッシュスペースを十分に確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。 ・階高や空間形状にゆとりを確保することで、建物の更新性に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。
Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
-	・広告物照明はない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版			
		■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)			
スコアシート 実施設計段階					
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質				評価点	重み係数
Q1 室内環境				評価点	重み係数
1 音環境				2.5	
1.1 室内騒音レベル				0.34	-
1.2 遮音				2.9	
1.3 吸音				3.5	0.15
1.1 開口部遮音性能				3.0	0.40
1.2 界壁遮音性能				3.8	0.40
1.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.60
1.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				5.0	0.40
1.5 床、天井の二面に吸音材を使用				-	-
2 溫熱環境				4.0	0.20
2.1 室温制御				2.2	0.35
2.2 湿度制御				3.5	0.50
2.3 空調方式				3.0	0.38
3 光・視環境				1.0	0.25
3.1 昼光利用				1.0	0.30
3.2 グレア対策				3.0	0.30
3.3 照度				3.0	1.00
3.4 照明制御				3.0	0.15
4 空気質環境				3.0	0.25
4.1 発生源対策				4.0	0.50
4.2 換気				4.0	1.00
4.3 運用管理				3.3	0.30
5 サービス性能				4.0	0.33
6 機能性				3.0	0.33
6.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.33
6.2 心理性・快適性				3.0	0.33
6.3 維持管理				3.0	0.30
7 耐用性・信頼性				3.0	0.30
7.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50
7.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.80
7.3 信頼性				3.0	0.20

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	3.6	0.30	-	-	3.6
		2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.30	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	-	5.0	0.60	-	-	
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.40	-	-	
		2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	5 設備機器の更新性	-	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	-	3.0	0.20	-	-	
	1 生物環境の保全と創出	-	-	-	0.36	-	-	1.8
	2 まちなみ・景観への配慮	-	-	1.0	0.30	-	-	1.0
	3 地域性・アメニティへの配慮	-	-	2.0	0.40	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	2.5	0.30	-	-	2.5
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー		-	-	-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	-	-	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	-	-	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	効率のよい設備機器を導入	-	-	4.9	0.50	-	-	4.9
4 効率的運用	集合住宅以外の評価	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
	4.1 モニタリング	-	-	3.0	1.00	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	3.0	0.50	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	-	-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護	1.1 節水	主要水栓等に加えて省水型機器を過半以上に採用	-	3.4	0.20	-	-	3.4
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	-	4.0	0.40	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.60	-	-	
	2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	-	-	3.3	0.60	-	-	3.3
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	2.0	0.11	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	-	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	3.0	0.22	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	-	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	3.3	0.20	-	-	3.3
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	-	3.0	0.30	-	-	
	1 消火剤	-	-	3.5	0.70	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の発泡系断熱材を採用	-	-	4.0	0.50	-	
	3 冷媒	-	-	-	3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	-	-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出量低減	-	-	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置無し	-	3.3	0.33	-	-	3.3
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	-	5.0	0.25	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	-	3.0	0.50	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	-	2.2	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	2.0	0.25	-	-	
	-	-	-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	-	3.2	0.33	-	-	3.2
	1 騒音	-	-	3.0	0.40	-	-	
	2 振動	-	-	3.0	1.00	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制	広告物照明を行っていない	-	4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	5.0	0.70	-	-	
	2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	3.0	0.30	-	-	

(仮称)株式会社アステム新北九州営業部棟新築工事(仮称)株式会社フォレストサービス自動車整備工場棟新築工事(本棟)															
評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	-	-	-	○	-	○	○	○			
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0		-		○			-			-	-	○	-	
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		2.0	-	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 集排水等再利用システム導入の有無			-												
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	-	-	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.7	窓の日射熱取得率(η)	0.6
U値(W/m ² K)	窓システム	4.2	屋根 0.4
外壁 0.9	床 -		
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	ηAC -

3.1.1 昼光率

昼光率 -	
自然換気有効開口面積率 -	

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース -	/人	病床 -	/床	シングル -	ツイン -
コンセント容量 -	VA/m ²				

1.1.2 高度情報通信設備対応

天井高 3 m	
リフレッシュスペース 1%以上	レストスペース 0.0%

1.2.1 広さ感・景観

想定耐用年数 -	年
想定必要間隔 40 年	

1.2.2 リフレッシュスペース

想定必要間隔 20 年	
想定必要間隔 15 年	

2.2.1 車体材料の耐用年数

階高 ≥3.9 m	
壁長さ比率 <0.1	

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

床荷重 - N/m ²	
外構緑化指標 0%	建物緑化指標 0%

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

空地率 61%	水平投影面積率 0%	地表面対策面積率 0%	舗装面積率 60%
---------	------------	-------------	-----------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

BPI/BPI _m 0.71	断熱等性能等級 対象外 相当
自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

3.1.1 階高のゆとり

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
BPI/BPI _m 非住宅 0.61 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

3.1.2 空間の形状・自由さ

雨水利用率 0.0%
特定調達品目 - エコマーク商品 岩綿吸音板 自治体指定の特定品目等 -

3.1.3 荷重のゆとり

使用比率 0.0%
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP) <50
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

見付面積比 43% 隣棟間隔指標Rw 3.92
地表面対策面積率 0.0% 屋根対策面積率 #DIV/0! 外壁対策面積率 #DIV/0!

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積Sb 649m ² 越前風向と直交する最大敷地幅W _s 102.553 m 基準高さH _b 14.43 m
緑地 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²